

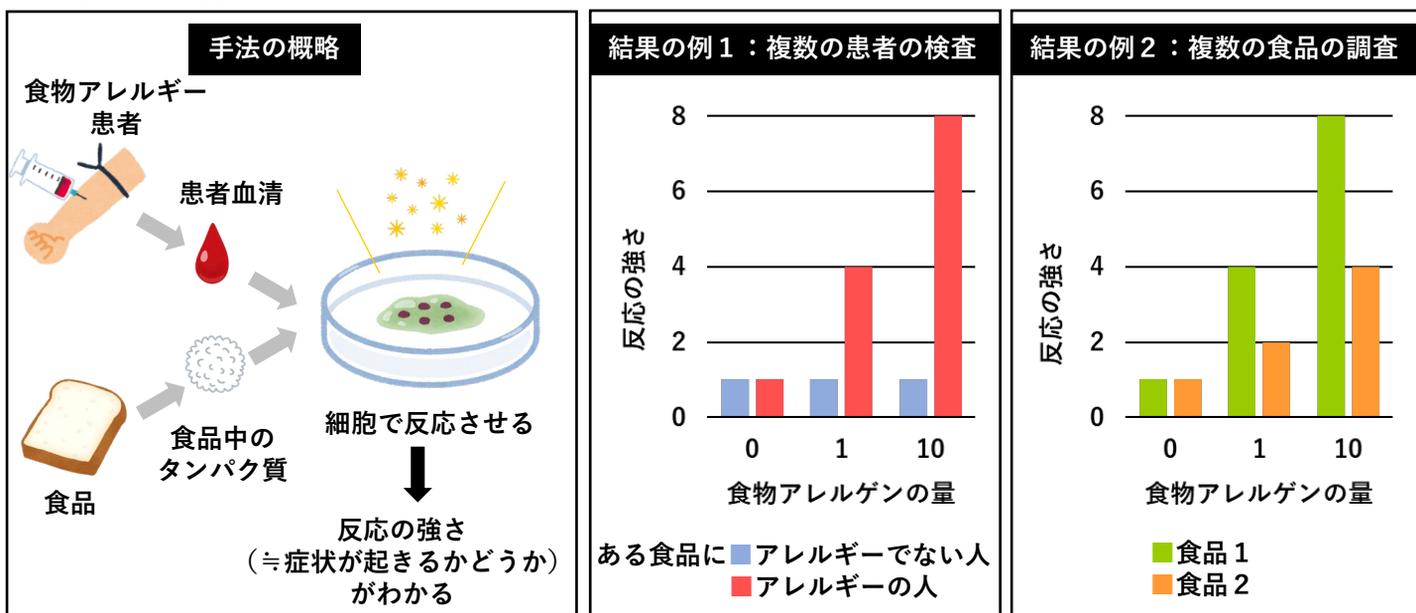
食物アレルギーのアレルギー誘発性評価

— より信頼度の高い食物アレルギー評価法 —

成果の特徴

- 食物アレルギーは、問診に加え、①血液を用いた特異的IgE抗体検査、②プリックテスト、③食物経口負荷試験、などの検査の結果から診断されます。
- ①の結果と、実際に症状を引き起こすかどうかとは、必ずしも一致しません。
- ②や③は、食品を患者に接触・摂食させるため、信頼度は高いものの、強い症状を引き起こす可能性があり、患者にとってリスクのある、注意の必要な試験です。
- 本法 (IgE Crosslinking-induced Luciferase Expression, EXiLE) は、食物アレルギーがヒト血清中に存在する抗原特異的IgEに結合することで引き起こされる反応を、細胞を用いて検出する、in vitro評価法です。
(参考文献：Nakamura et al., Allergy, 2010, 65, 1266-1273)
- ある食品が、ある患者において実際に症状を引き起こすかどうかを、高感度、かつ、より臨床に近い形で評価することができる手法です。
- 検出には、凍結保存された患者血清も使用できます。

成果の内容



成果の活用

より信頼度の高いアレルギー評価法として、食品および食品以外のアレルギーの診断や、アレルギー低減の調査への利用が期待されています。

参考

岡本薫、加藤えり那、河野透哉、斎藤彩子、山田慎吾、森雄司、中島陽一、原尚資、佐藤里絵、圓山恭之進、近藤康人、第2回日本アレルギー学会東海地方会、2021。

※本研究は生研支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業」の支援を受けて行ったものです。